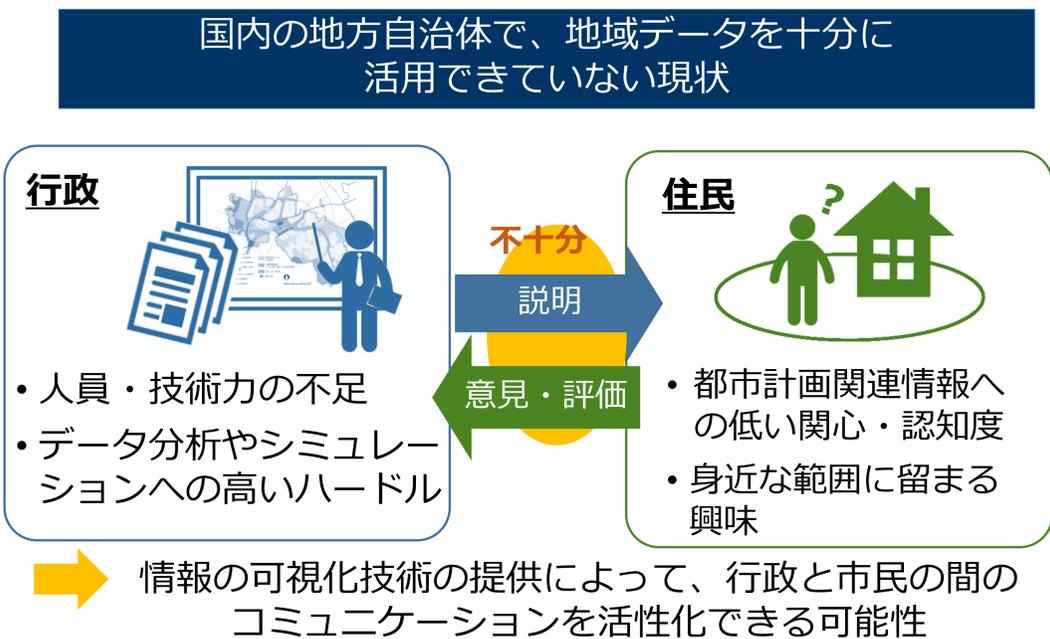
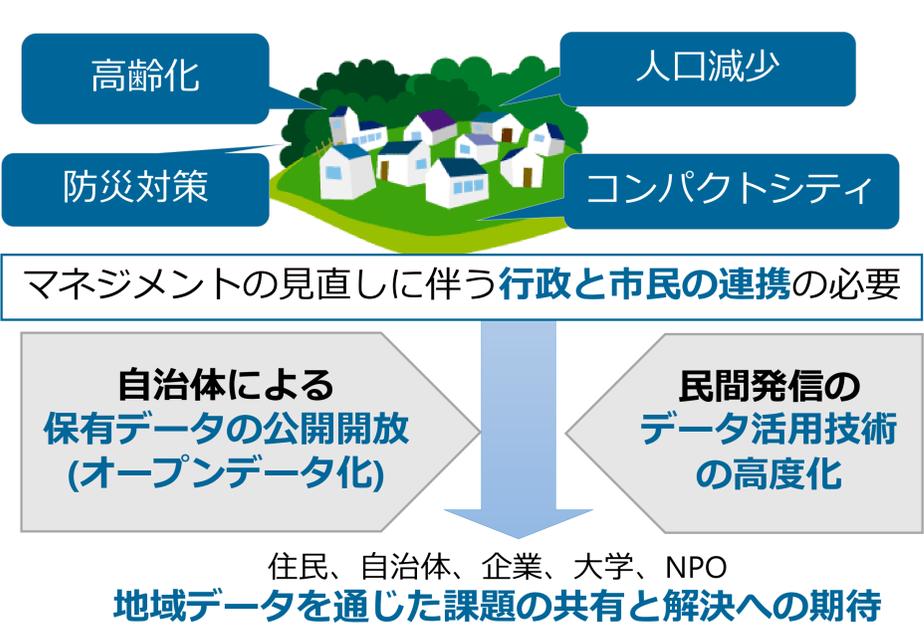


# 行政と市民との協働に向けた 都市の将来像可視化システム: MyCityForecast

長谷川瑠子、関本義秀、瀬戸寿一、福島佑樹、前田翠、小俣博司  
東京大学 生産技術研究所、空間情報科学研究センター



**<目的>**  
オープンデータを活用した都市の将来像可視化システムを開発し、行政と市民が協働したまちづくりに向けての活用可能性を検討すること

**内容**

- 2040年までの都市構造の変化をWeb上で閲覧可能な“MyCityForecast”の開発
- 全国1,670自治体対応+バリ版(英語化)
- 国内複数都市とインドネシアにおける試行的なワークショップ実施

ワークショップの開催(主な地域)

対象地域	実施日	対象	テーマ	人数
水戸市	2016/1/21	市民・企業	オープンデータ活用研究会	20名
横浜市	2015/11/9	市職員	データ活用職員研修	52名
	2016/1/16	市民(青葉区民会議)	データを通して区の将来を考える	11名
倉敷市	2017/1/7	市民・企業・市職員・国	市街地(観光地)渋滞対策	15名
江津市	2017/1/14	市民・民間団体・市職員	過疎地の公共交通問題・医療介護の拠点	25名
南砺市	2017/1/21	市民・企業・市職員	公共施設施策を考える	25名
	2017/12/16	土木学会土木情報学委員会	立地適正化計画/公共施設再編を想定した小学校統廃合シミュレーション	15名

**MY CITY FORECAST** <http://mycityforecast.net/> 総務省ICT地域活性化大賞2016・奨励賞受賞

**全体の将来推計フロー**

- 国勢調査、自治体決算情報、国土数値情報、公共交通情報等
- 現在・過去の都市の姿を表す公共データ・オープンデータ
- 将来人口分布を推定
- 都市施設の配置推定
- 行政コストを算定
- 居住誘導エリアを指定した人口遷移を想定(※)
- 周辺人口で現状規模を維持できるか判定
- 推定した人口分布、施設立地に応じた変化
- 地域メッシュ5年ごとの生活関連指標の推定値
- 都市のコンパクト化を想定したシミュレーション

**a. タイトル** **b. レイヤー表示・居住メッシュ選択用地図部分** **c. 年代スクロールバー** **d. 選択メッシュ・年代ごとの住環境14項目の表示部分** **e. アンケートページへのリンク**

主な指標	地域の人口	65歳以上人口割合	14歳以下人口割合	一人あたりの行政コスト負担	平地割合
2015年の値	223人	32.7%	14.3%	34.7万円	87.7%
そのままの都市構造	315人	41.9%	10.5%	40.0万円	86.1%
計画された都市構造	62人	37.1%	9.7%	41.5万円	91.0%

**※: 将来人口分布の推定フロー**

推定時の仮定

- 市内の住宅需要は市内で満たされる
- 都市計画に居住誘導がある場合、住宅の新規需要、更新の際には誘導地域に新たに住居を求めるものとする。誘導地域のデフォルト設定は平成22年度版人口集中(DID)地区。
- 世帯数に比例して人口、市街地面積は増減する

**MCFカスタマイズ機能の提供**

1. 居住を誘導する地域人口を集めるとしたらどの市内のエリア? (クリックで登録したいメッシュを選択)
2. 都市施設の整備方針どれくらいの人口になるまで都市施設を保有する? (1km圏人口密度を入力と個別の施設の存続状況をダウンロードして編集)
3. 地図表示レイヤの追加この情報も追加し、地図に重ねてみたい! (シェープファイルやGeoJSONファイルをアップロード)